

# はたらく服

Clothing for Workers

記号性と機能性

2014年10月16日(木) → 11月20日(木)



イベント (すべて参加費無料・事前申込み不要)

- 刺し子のコースター作り

日時 11月6日(木)、11月8日(土)

13時30分〜2時間程度

定員 各日15名(希望者多数の場合は抽選)

参加方法 13時30分に企画展受付にお集まりください。
  - 着装体験「覆面をかぶってみよう」

日時 10月23日(木)、10月30日(木)、11月13日(木)

11月15日(土) 各日13時〜15時30分

参加方法 13時〜15時30分の間に企画展受付にお越しください。

所要時間 15分程度

※混雑時にはお待ちいただくことがあります。
  - ギャラリートーク (当館学芸員による展示品解説)

日時 10月22日(水)、11月8日(土)、11月18日(火)

15時〜16時40分程度

参加方法 15時に企画展受付にお集まりください。
- 注・詳しくは当館ホームページの「イベント情報」をご覧ください。

▶開催場所：東京家政大学内・百周年記念館5階 展示室 ▶下車駅：JR 埼京線「十条駅」徒歩5分／都営三田線「新板橋駅」徒歩12分  
 ▶開館時間：9:30〜17:00 ▶休館日：日曜・祝日、10月27日(10月26日は学園祭のため開館) ▶入館無料

# はたらく服

Clothing for Workers

● 記号性と機能性 ●

2014年 10月16日(木) → 11月20日(木)

働くとき、人はそれぞれの仕事に適した服を身につけます。職業が一目でわかる制服、動きやすさを重視した労働着…。本展では、明治から昭和初期頃の職業服・仕事着を中心に展示し、その「記号性」と「機能性」に迫ります。人は仕事に何を求め、服に何を託してきたのか。「はたらく服」が、人と服との関係を見つめ直すきっかけとなれば幸いです。

## 鑑賞のポイント

### 記号性 — 服を見れば職業がわかる

服には本来、着ている人が何者かを表す役割があります。特に仕事用の制服は、職業や所属等を示す「記号」そのものといえます。

明治期に定められた職業服を中心に、服に込められた意味やイメージを読み解きます。

### 機能性 — 身につけてパワーアップ

動きやすく、厳しい環境条件や危険から身を守る。労働の際に身につける服には、こうした機能性が求められます。「機能性」という面から、農山漁村で用いられた仕事着等の特徴を紹介します。

### さいほうひながた はたらく服の裁縫雛形

裁縫雛形は、明治から昭和にかけて、本学の教育課程の中で製作された衣服等のミニチュアです。職業服や仕事着も含まれ、当時の衣服の製作方法や形態を知るうえで貴重な資料となっています。



法服 地方裁判所判事(昭和初期)



看護服(大正～昭和前期)  
日本赤十字看護大学史料室蔵



軍服 陸軍将校 正装(大正初期)



刺し子 仕事着



作業用覆面 左「テナガボッチ」右「ハンコタンナ」



裁縫雛形 左より「弁護士礼服」明治38年／「看護服・帽子」大正7年  
「シングルプレステッドサックコート」「パンツ」大正2年／「女モッペイ」大正4年

## 講座のお知らせ

### ■「もっと知りたい! 裁縫雛形 講座」

当館の主要コレクションである「渡辺学園 裁縫雛形コレクション」(国指定重要有形民俗文化財)。学生が裁縫の練習用に製作した衣服のミニチュアが、なぜ国の文化財になったのか。3回にわたって、裁縫雛形の資料的価値や魅力に迫ります。

- ・11/15(土) 「裁縫雛形とは～小さくてかわいい、だけじゃない!」
- ・11/29(土) 「和紙で着物の雛形を作ろう～どうやって小さくするの?」
- ・12/6(土) 「雛形が作られた時代の衣生活」

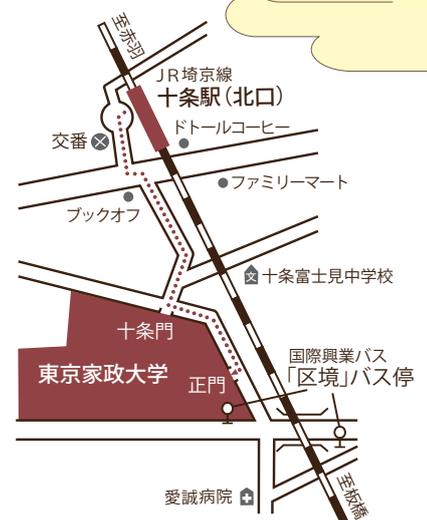
[時間] 各回 13:30～15:00

[定員] 各回 30名

[申込み期間] 10/16の9:30～10/31まで ※定員に達した時点で受付終了。

[申込み方法] 当館HPの専用申込みフォーム。または企画展受付。

※詳しくは当館HPをご覧ください。



※JR埼京線十条駅(北口)より十条門まで徒歩5分  
※十条門より博物館まで徒歩3分  
※正門におまわりいただくと分かりやすいです。